

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／不動産投信
信託期間	無期限（設定日：2015年6月12日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として、日本を除くアジア各国・地域（オセアニアを含みます。）の取引所に上場している不動産投資信託（リート）等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 <b>SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)</b> 日本を除くアジア各国・地域の取引所に上場している不動産投資信託 <b>マネー・マーケット・マザーファンド</b> 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として、日本を除くアジア各国・地域（オセアニアを含みます。）の取引所に上場している不動産投資信託（リート）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年1回（原則として毎年9月12日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。  ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

# アジア好利回り リート・ファンド (年1回決算型)

【運用報告書(全体版)】

(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

第 10 期

決算日 2024年9月12日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として、日本を除くアジア各国・地域（オセアニアを含みます。）の取引所に上場している不動産投資信託（リート）等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。  
今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



## 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

### ■ 最近5期の運用実績

決算期 (分配落)	基準価額			公社債組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	税込分配金		期中騰落率			
6期(2020年9月14日)	円 12,282	円 0	% △3.5	% 0.0	% 98.0	百万円 4,855
7期(2021年9月13日)	14,093	0	14.7	0.0	98.0	4,816
8期(2022年9月12日)	15,783	0	12.0	0.0	94.8	4,750
9期(2023年9月12日)	14,693	0	△6.9	0.0	97.5	3,859
10期(2024年9月12日)	15,998	0	8.9	0.0	98.1	3,086

\*基準価額の騰落率は分配金込み。

\*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

### ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		公社債組入比率	投資信託証券組入比率
		騰落率		
(期首) 2023年9月12日	円 14,693	% —	% 0.0	% 97.5
9月末	14,224	△3.2	0.0	98.4
10月末	13,292	△9.5	0.0	98.1
11月末	14,616	△0.5	0.0	98.8
12月末	15,308	4.2	0.0	95.6
2024年1月末	15,167	3.2	0.0	98.7
2月末	15,378	4.7	0.0	98.1
3月末	15,837	7.8	0.0	94.1
4月末	15,642	6.5	0.0	98.3
5月末	15,789	7.5	0.0	97.9
6月末	15,787	7.4	0.0	92.5
7月末	15,932	8.4	0.0	98.5
8月末	16,129	9.8	0.0	99.1
(期末) 2024年9月12日	15,998	8.9	0.0	98.1

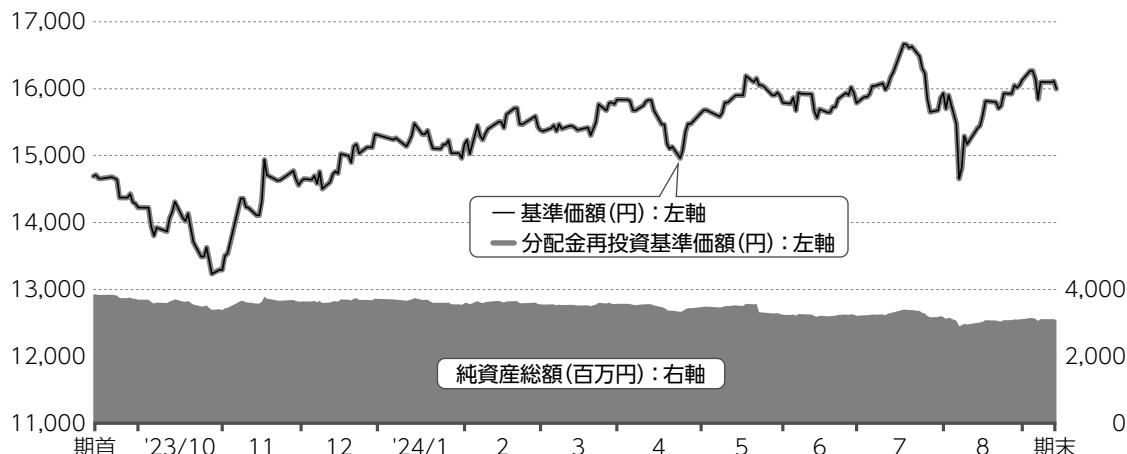
\*騰落率は期首比です。

\*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	<b>14,693円</b>
期 末	<b>15,998円</b> (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	<b>+8.9%</b> (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### 基準価額の主な変動要因(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として日本を除くアジア各国・地域(オセアニアを含みます。)の取引所に上場している不動産投資信託(リート)等に投資しました。

なお、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行っていません。

#### 上昇要因

- 中央銀行による利上げのピークアウトと堅調な業績を好感して、オーストラリアリートが大幅に上昇したこと
- 日本と海外の金利差継続を背景に、期の半ばに香港ドル、シンガポールドル、オーストラリアドルが対円で上昇したこと

#### 下落要因

- 中国の景気動向や不動産市況を巡る不透明感が、香港リートの重石となったこと
- 日本の追加利上げ実施と米国の利下げ観測で、日本と海外の金利差縮小が意識されて、期末にかけて香港ドル、シンガポールドル、オーストラリアドルが対円で下落したこと

### 投資環境について(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

アジア・オセアニアリート市場は、香港、シンガポール、オーストラリアすべての市場が上昇しましたが、特にオーストラリアリートが大幅に上昇しました。為替市場では、シンガポールドル、オーストラリアドルが対円で上昇し、香港ドルが下落しました。

#### アジア・オセアニアリート市場

香港リートは、停滞する中国の景気動向や不動産市況を巡る不透明感などから軟調な推移が続きましたが、金融政策で連動する米国の利下げ観測の高まりを背景に、期末にかけて持ち直しました。

シンガポールリートは、期の前半から世界景気減速への懸念から上値が重い動きでしたが、長期金利(10年国債利回り)の低下が支えとなり、期の後半に上昇基調となりました。

オーストラリアリートは、インフレの落ち着きに伴い中央銀行が利上げから金利据置きに転換したことが強く好感されました。期の後半は米国の利下げ観測の波及が追い風となりました。また、大手物流施設リートの好業績が大きな押上げ効果となりました。

#### 為替市場

アジア・オセアニア通貨は、海外と日本の金利差を背景に円安基調が続きましたが、日銀の追加利上げ実施や米国の利下げ観測の高まりで金利差縮小が意識されて、期末にかけて急速に円高が進みました。

## アジア好利回りリート・ファンド（年1回決算型）

### ポートフォリオについて(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

#### 当ファンド

「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)」および「マネー・マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)」の高位組入れを維持しました。

#### SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)

市場動向を注視しながら、個別銘柄の流動性に配慮して慎重に売買を進め、組入比率は高位を保ちました。期末の組入銘柄数は35銘柄で、銘柄分散効果でパフォーマンスの安定を図りつつ、個別銘柄を総合的に勘案したウェイト付けで、比較的高いパフォーマンスの享受を狙いました。

香港では、米国金利が低下する展開を想定して期中にウェイトを一旦引き上げましたが、

停滞する中国の景気動向や不動産市況を巡る不透明感に伴う今後の業況悪化を考慮し、期の後半にウェイトを再び引き下げました。

シンガポールでは、堅調なパフォーマンスを受けて緩やかにウェイトを引き下げました。市況改善が織り込まれたホテルリートを減らしました。産業施設リートでは出遅れている大型銘柄にシフトしました。

オーストラリアでは、期の後半にかけてウェイトを高めました。長期金利の落ち着きでファンド運営事業の復調が見込まれるリートや、インフレ連動での賃料増額期待がある大手商業施設リートなどのウェイトを増やしました。

#### マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

### ベンチマークとの差異について(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 分配金について(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第10期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	10,262

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## ② 今後の運用方針

## 当ファンド

「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト(JPY Unhedged クラス)」および「マネー・マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行う方針です。引き続き「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト(JPY Unhedged クラス)」の高位組入れを維持します。

SMAM アジア・リート・サブ・トラスト  
(JPY Unhedged クラス)

引き続きファンドの基本コンセプトである、「収益の成長性に加え、配当利回りなどのバリュエーション(投資価値評価)に着目した運用」を行ってまいります。また、外部環境の

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたします。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

変動性が高い状況にも留意しながら、引き続き個別銘柄選択を重視し、ファンドを特徴づける魅力的な銘柄群に投資する方針です。

また、我々はアジア・オセアニアリートにおいてESGリサーチを行っていますが、コロナ禍を経てESG(環境・社会・企業統治)の重要性がさらに高まっています。ESGリサーチを活用したリートとの対話を通じて、リートの企業価値の向上を図り、ひいてはファンドのパフォーマンスの改善、リート市場のサステナビリティ向上を推し進めていく所存です。

## マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

- 信託期間を無期限とすることに伴い、信託約款に所要の変更を行いました。

(適用日：2023年12月8日)

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### 1万口当たりの費用明細(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	173円	1.133%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は15,291円です。
（投信会社）	(42)	(0.275)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(126)	(0.825)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファン
（受託会社）	(5)	(0.033)	ドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	23	0.149	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(−)	(−)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(−)	(−)	
（投資信託証券）	(23)	(0.149)	
(c) 有価証券取引税	—	—	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(−)	(−)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(−)	(−)	
（投資信託証券）	(−)	(−)	
(d) その他費用	1	0.008	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(−)	(−)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.008)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他の費用
合計	197	1.290	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

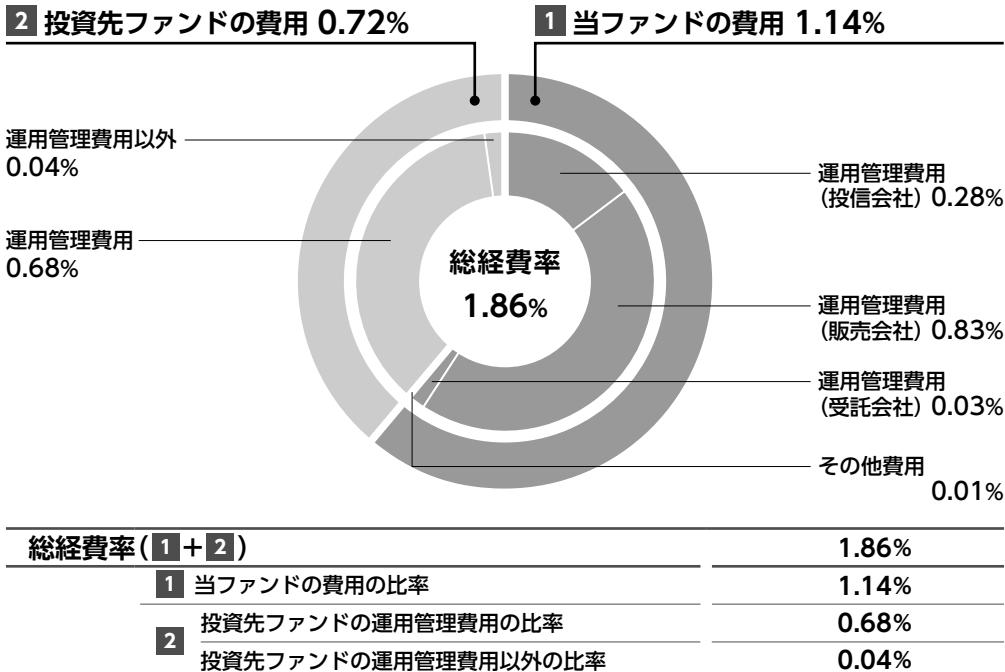
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※①の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※②の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※①と②の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.86%です。

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### ■ 当期中の売買及び取引の状況(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

#### 投資信託証券

		買付		売付	
		口数	買付額	口数	売付額
国内	SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)	口 568,420,858	千円 820,025	口 1,209,305,040	千円 1,725,507

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建での外国籍投資信託証券を含みます。

### ■ 利害関係人との取引状況等(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2023年9月13日から2024年9月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

### ■ 組入れ資産の明細(2024年9月12日現在)

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		期末		組入比率
	口数	口数	評価額	組入比率	
SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)	口 2,694,865,486	口 2,053,981,304	千円 3,026,130	98.1	%
合計	2,694,865,486	2,053,981,304	3,026,130	98.1	

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### (2) 親投資信託残高

種類	期首(前期末)	期末	
	口数	口数	評価額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 0	千口 0	千円 0

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は1,208,161,753口です。

### ■ 投資信託財産の構成

(2024年9月12日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 3,026,130	% 97.1
マネー・マーケット・マザーファンド	0	0.0
コール・ローン等、その他	89,314	2.9
投資信託財産総額	3,115,446	100.0

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### ■資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年9月12日現在)

項目	期末
<b>(A) 資産</b>	
コール・ローン等	3,115,446,274円
投資信託受益証券(評価額)	89,314,624
マネー・マーケット・マザーファンド(評価額)	3,026,130,655
	995
<b>(B) 負債</b>	<b>29,444,760</b>
未払解約金	10,445,448
未払信託報酬	18,871,121
その他未払費用	128,191
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>3,086,001,514</b>
元本	1,928,934,538
次期繰越損益金	1,157,066,976
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>1,928,934,538口</b>
1万口当たり基準価額(C/D)	15,998円

※当期における期首元本額2,626,508,987円、期中追加設定元本額161,830,678円、期中一部解約元本額859,405,127円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

### ■損益の状況

(自2023年9月13日 至2024年9月12日)

項目	当期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>140,445,289円</b>
受取配当金	140,424,853
受取利息	39,643
支払利息	△ 19,207
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>138,530,933</b>
売買益	197,961,540
売買損	△ 59,430,607
<b>(C) 信託報酬等</b>	<b>39,649,010</b>
<b>(D) 当期損益金(A+B+C)</b>	<b>239,327,212</b>
<b>(E) 前期繰越損益金</b>	<b>284,976,367</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>632,763,397</b>
(配当等相当額)	( 1,039,943,989)
(売買損益相当額)	(△ 407,180,592)
<b>(G) 合計(D+E+F)</b>	<b>1,157,066,976</b>
<b>次期繰越損益金(G)</b>	<b>1,157,066,976</b>
追加信託差損益金	632,763,397
(配当等相当額)	( 1,039,943,989)
(売買損益相当額)	(△ 407,180,592)
分配準備積立金	939,654,931
繰越損益金	△ 415,351,352

※有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	120,485,977円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	1,039,943,989
(d) 分配準備積立金	819,168,954
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	1,979,598,920
1万口当たり当期分配対象額	10,262.65
(f) 分配金	0
1万口当たり分配金	0

### ■分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)

当期

0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## アジア好利回りリート・ファンド（年1回決算型）

### ■組入れ投資信託証券の内容

#### 投資信託証券の概要

ファンド名	SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)								
形態	ケイマン籍契約型投資信託（円建て）								
主要投資対象	日本を除くアジア各国・地域の取引所に上場している不動産投資信託								
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を除くアジア各国・地域の取引所に上場している不動産投資信託に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指します。</li> <li>※オセアニア地域の取引所に上場している不動産投資信託にも投資を行います。</li> <li>・収益の成長性に加え、配当利回り等のバリュエーションに着目した運用を行います。</li> <li>・原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>								
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券の空売りは純資産総額の範囲内で行います。</li> <li>・同一発行体に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーは、原則として、それぞれ純資産総額の10%以内、合計で純資産総額の20%以内とします。</li> <li>・非流動性資産への投資は、純資産総額の15%以内とします。</li> </ul>								
分配方針	毎月28日（休業日の場合は前営業日）に分配を行う方針です。								
運用管理費用	<p>純資産総額に対して</p> <table> <tbody> <tr> <td>運用報酬</td> <td>年0.55%程度</td> </tr> <tr> <td>受託会社報酬</td> <td>年0.01%程度（最低年10,000米ドル）</td> </tr> <tr> <td>管理費用</td> <td>年0.09%程度（最低年45,000米ドル）</td> </tr> <tr> <td>保管費用</td> <td>年0.05%程度</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記のほか、為替売買執行の代行費用などがかかりますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。</p> <p>また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回ることがあります。</p>	運用報酬	年0.55%程度	受託会社報酬	年0.01%程度（最低年10,000米ドル）	管理費用	年0.09%程度（最低年45,000米ドル）	保管費用	年0.05%程度
運用報酬	年0.55%程度								
受託会社報酬	年0.01%程度（最低年10,000米ドル）								
管理費用	年0.09%程度（最低年45,000米ドル）								
保管費用	年0.05%程度								
その他の費用	<p>ファンドの取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>								
申込手数料	ありません。								
信託財産留保額	解約時に0.3%								
投資顧問会社	三井住友D S アセットマネジメント株式会社								
投資助言会社	スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（シンガポール）ピーティーイー・リミテッド								
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。								

以下には、「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト (JPY Unhedged クラス)」をシェアクラスとして含む「SMAM アジア・リート・サブ・トラスト」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

### ■包括利益計算書(2024年2月29日に終了した期間)

(単位：円)

#### 利益

受取利息、配当収入、その他収入、および損益を通じて公正価値で測定される金融資産・負債ならびに外国通貨取引にかかる実現純損益と未実現損益の純変動額	5,961,907,170
--	---------------

#### 費用

投資運用報酬	471,489,674
取引費用	197,422,868
管理事務代行報酬	68,580,319
保管報酬	46,030,841
受託報酬	8,572,533
名義書換代行報酬	8,572,533
専門家報酬	929,997
登録手数料	—
費用合計	<u>801,598,765</u>

#### 営業損益

5,160,308,405

#### 税引前損益

5,160,308,405

#### 源泉徴収税

(263,008,043)

#### 営業による償還可能受益証券保有者に帰属する純資産の増減

4,897,300,362

# アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

## ■ 投資明細表(2024年2月29日現在)

株数	銘柄名	純資産比率 (%)	公正価値 (単位：円)
<b>普通株式 (93.8%)</b>			
<b>オーストラリア (31.2%)</b>			
<b>不動産投資信託 (31.2%)</b>			
1,512,000	Charter Hall Group	2.3%	1,844,895,958
1,254,595	Charter Hall Long Wale REIT	0.6	456,066,469
5,701,389	Charter Hall Social Infrastructure REIT	1.8	1,472,455,935
2,305,991	Dexus	2.0	1,654,059,704
2,560,332	Goodman Group	9.1	7,460,762,787
3,550,000	GPT Group	1.8	1,504,989,151
9,820,000	HomeCo Daily Needs REIT	1.5	1,191,507,001
11,097,896	Mirvac Group	2.9	2,357,832,250
8,964,589	Rural Funds Group	2.2	1,808,491,567
10,900,503	Scentre Group	4.0	3,303,867,997
4,892,598	Stockland	2.6	2,140,925,889
1,840,000	Vicinity Centres	0.4	<u>347,884,687</u>
			<u>25,543,739,395</u>
<b>オーストラリア合計</b>			<b><u>25,543,739,395</u></b>
<b>香港 (7.2%)</b>			
<b>不動産投資信託 (7.2%)</b>			
7,193,500	Link REIT	6.5	5,356,575,874
15,347,000	Sunlight Real Estate Investment Trust	0.7	<u>545,727,688</u>
			<u>5,902,303,562</u>
<b>香港合計</b>			<b><u>5,902,303,562</u></b>

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

株数	<u>銘柄名</u>	純資産比率 (%)	公正価値 (単位：円)
	インド (4.2%)		
	不動産投資信託 (4.2%)		
2,602,000	Embassy Office Parks REIT	2.2	1,784,785,315
1,120,000	Mindspace Business Parks REIT	0.8	687,372,313
4,180,000	Nexus Select Trust	1.2	957,109,988
			<u>3,429,267,616</u>
	インド合計		<u>3,429,267,616</u>
	マレーシア (1.0%)		
	不動産投資信託 (1.0%)		
15,893,400	Sunway Real Estate Investment Trust	1.0	781,977,293
	マレーシア合計		<u>781,977,293</u>
	ニューシーランド (1.1%)		
	不動産投資信託 (1.1%)		
4,300,000	Goodman Property Trust	1.1	878,307,651
	ニュージーランド合計		<u>878,307,651</u>
	シンガポール (47.4%)		
	不動産 (2.1%)		
15,246,310	Ascendas India Trust	2.1	1,714,066,830
	不動産投資信託 (45.3%)		

## アジア好利回リート・ファンド（年1回決算型）

株数	銘柄名	純資産比率 (%)	公正価値 (単位：円)
17,724,270	Ascendas Real Estate Investment Trust	6.6	5,405,807,183
7,160,000	Ascott Residence Trust	0.8	713,308,975
9,985,811	CapitaLand China Trust	1.0	822,539,367
25,047,209	CapitaLand Integrated Commercial Trust	6.7	5,464,583,193
57,258,400	Digital Core REIT Management Pte Ltd.	6.1	4,970,521,454
15,084,108	Frasers Centrepoint Trust	4.5	3,677,099,477
24,941,100	Frasers Logistics & Commercial Trust	3.5	2,859,528,698
1,746,538	Keppel DC REIT	0.4	330,497,814
6,750,000	Keppel REIT	0.8	649,922,409
17,200,000	Lendlease Global Commercial REIT	1.3	1,100,874,780
16,282,065	Mapletree Industrial Trust	5.1	4,150,367,920
28,159,060	Mapletree Logistics Trust	5.7	4,638,969,312
3,187,500	Parkway Life Real Estate Investment Trust	1.5	1,248,919,619
13,750,000	Sasseur Real Estate Investment Trust	1.3	1,040,766,349
<b>シンガポール合計</b>			<b>37,073,706,550</b>
<b>タイ (1.7%)</b>			<b>38,787,773,380</b>

タイ (1.7%)

不動産投資信託 (1.7%)

19,300,000	Frasers Property Thailand Industrial Freehold & Leasehold REIT	1.0	805,417,784
11,466,000	IMPACT Growth Real Estate Investment Trust	0.7	564,622,071
			<b>1,370,039,855</b>
			<b>1,370,039,855</b>
			<b>76,693,408,752</b>

タイ合計

普通株式合計 (取得原価 ¥71,769,674,268)

損益を通じて公正価値で測定される金融資産・負債合計	純資産比率 (%)	公正価値 (単位：円)
<b>普通株式</b>	<b>93.8%</b>	<b>76,693,408,752</b>
負債控除後の現金およびその他の資産	6.2	5,045,546,912
<b>純資産</b>	<b>100.0%</b>	<b>81,738,955,664</b>

# マネー・マーケット・マザーファンド

第13期（2023年3月2日から2024年3月1日まで）

信託期間	無期限（設定日：2011年5月31日）
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率		公社債組入比率	純資産額
		円	%		
9期(2020年3月2日)	10,013		△0.1	80.6	77
10期(2021年3月1日)	10,002		△0.1	75.9	76
11期(2022年3月1日)	9,994		△0.1	76.0	76
12期(2023年3月1日)	9,991		△0.0	74.7	76
13期(2024年3月1日)	9,986		△0.1	74.7	76

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

## ■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	期中騰落率		公社債組入比率	純資産額
		騰落率	%		
(期首) 2023年3月1日	円 9,991		—		74.7
3月末	9,991	0.0	0.0	74.7	
4月末	9,991	0.0	0.0	74.8	
5月末	9,991	0.0	0.0	74.7	
6月末	9,989	△0.0	0.0	74.8	
7月末	9,988	△0.0	0.0	74.8	
8月末	9,988	△0.0	0.0	74.7	
9月末	9,987	△0.0	0.0	74.8	
10月末	9,986	△0.1	0.1	74.7	
11月末	9,987	△0.0	0.0	74.7	
12月末	9,988	△0.0	0.0	74.7	
2024年1月末	9,989	△0.0	0.0	74.7	
2月末	9,986	△0.1	0.1	74.7	
(期末) 2024年3月1日	9,986	△0.1	0.1	74.7	

※騰落率は期首比です。

## ① 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

#### 基準価額等の推移



### ▶ 基準価額の主な変動要因(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

#### 下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

### ▶ 投資環境について(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

短期金利は上昇しました。

世界的に高水準のインフレが続いたことや、欧米中央銀行による利上げの継続を背景に円安が進行したことから、国内でも物価上昇率が高止まりし、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上での推移となりました。この間、日銀は市場機能への配慮や物価上振れリスクへの対応として、長期金利（10年国債利回り）の許容変動幅の事実上の上限引き上げを行うなど、イールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用を柔軟化しました。しかし、日

銀は賃金上昇を伴う形での物価目標の達成を目指すために、イールドカーブ・コントロールの枠組みは維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、欧米での金融不安の影響でリスク回避の動きが強まった2023年3月や、年末越え運用ニーズが高まった10月に、一時的に大きく低下する局面もありましたが、期を通じて概ねレンジ推移となりました。

## ▶ ポートフォリオについて(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しの下、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

## ▶ ベンチマークとの差異について(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## ② 今後の運用方針

国内景気は足踏みしているものの、先行きはインフレ鈍化や賃金上昇が内需のサポートとなり、緩やかな回復基調に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、政策効果によって+2%台に低下しており、先行きも輸入物価を起点とするコストプレッシャー圧力の弱まりにより緩やかに減速基調が続く見通しです。日銀は賃金、物価上昇の好循環への確度が高まったタイミングでの政策変更を示唆しており、春闘の大勢が判明する春先に、マイナス金利解除を中心とした政策変更を実施する見込みです。

マイナス金利政策が解除されれば、短期国債利回りやコールローン（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りがプラスに転じると予想します。

マイナス利回りが継続する間は、引き続き、残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。また、プラス利回りに転じた際には、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

## マネー・マーケット・マザーファンド

### ■ 1万口当たりの費用明細(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.006% (0.006)	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	1	0.006	

期中の平均基準価額は9,989円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

### ■ 当期中の売買及び取引の状況(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

公社債

		買付額	売付額
国 内	国 債 証 券	千円	千円
	特 殊 債 券	29,128	— (14,000)
		28,193	— (43,000)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※( )内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

### ■ 利害関係人との取引状況等(2023年3月2日から2024年3月1日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年3月2日から2024年3月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

# マネー・マーケット・マザーファンド

## ■組入れ資産の明細(2024年3月1日現在)

公社債

### A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区分	期			うちBB格以下 組入比率	末		
	額面金額	評価額	組入比率		5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 29,000 (-)	千円 29,077 (-)	% 38.0 (-)	% — (-)	% — (-)	% — (-)	% 38.0 (-)
特殊債券 (除く金融債券)	28,000 (28,000)	28,058 (28,058)	36.7 (36.7)	— (-)	— (-)	— (-)	36.7 (36.7)
合計	57,000 (28,000)	57,135 (28,058)	74.7 (36.7)	— (-)	— (-)	— (-)	74.7 (36.7)

※( )内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

### B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種類	銘柄	期末			
		利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	335 10年国債 337 10年国債	% 0.5000 0.3000	千円 15,000 14,000	千円 15,045 14,031	2024/09/20 2024/12/20
	小計	—	29,000	29,077	—
特殊債券 (除く金融債券)	215 政保道路機構 3 政保新関西空港	0.6690 0.6440	14,000 14,000	14,020 14,038	2024/04/30 2024/06/26
	小計	—	28,000	28,058	—
	合計	—	57,000	57,135	—

## ■投資信託財産の構成

(2024年3月1日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
公社債	千円 57,135	% 74.7
コール・ローン等、その他	19,387	25.3
投資信託財産総額	76,523	100.0

## マネー・マーケット・マザーファンド

### ■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年3月1日現在)

項目	期末
(A) 資産	76,523,750円
コール・ローン等	19,326,840
公社債(評価額)	57,135,822
未収利息	58,508
前払費用	2,580
(B) 負債	258
その他未払費用	258
(C) 純資産総額(A-B)	76,523,492
元本	76,632,575
次期繰越損益金	△ 109,083
(D) 受益権総口数	76,632,575口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,986円

※当期における期首元本額76,632,575円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジあり/3ヶ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド(為替ヘッジなし/3ヶ月決算型)	1,456,790円
日興ブリックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブリックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ)	1,237,272円
三井住友・ニュー・アジア・ファンド	369,177円
アジア好利回りリート・ファンド(年1回決算型)	997円
日興ブリックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(為替ヘッジなし/年2回決算型)	1,187,376円
日興ブリックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ/年2回決算型)	389,132円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルBファンド(為替ヘッジあり)	289,352円
日興エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グローバルCBファンド(為替ヘッジなし)	419,066円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローリング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド(年1回決算型)	7,882,655円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

### ■損益の状況

(自2023年3月2日至2024年3月1日)

項目	当期
(A) 配当等収益	359,798円
受取利息	368,517
支払利息	△ 8,719
(B) 有価証券売買損益	△393,040
売買	△393,040
(C) その他費用等	△ 4,707
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 37,949
(E) 前期繰越損益金	△ 71,134
(F) 合計(D+E)	△109,083
次期繰越損益金(F)	△109,083

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

### ■お知らせ

#### <約款変更について>

- ・デリバティブ取引の利用目的を明確化するため、信託約款に所要の変更を行いました。

(適用日: 2023年11月22日)